

丹沢山（丹沢最高峰 蛭ヶ岳 1673m） 日本百名山

2019年5月27日 Shiba

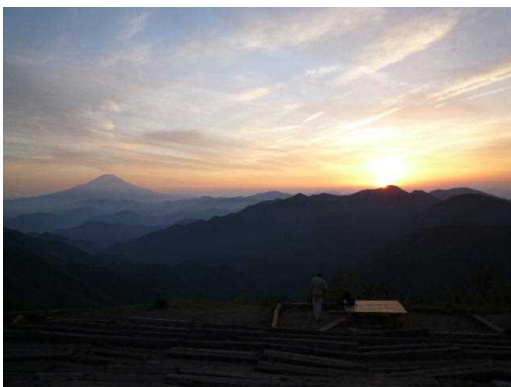
丹沢山系には二つの主要縦走路がある。ひとつは丹沢主脈縦走路で塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳・焼岳と巡るコース、もう一つは丹沢主稜縦走路で塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳・檜洞丸と巡るコースである。今回は次の旅程への移動のことを考え、丹沢主稜縦走路を選択、丹沢の表玄関にあたる大倉登山口から入山し西丹沢ビジターセンターへ下山するコースを選択した。

JR で唯一残っている夜行列車「サンライズ瀬戸・出雲」を利用しようとする私の夜行移動案は、翌日の体力負担が大きすぎるとの判断となり、新幹線利用による昼行移動になった。その為、山中2泊の山行となったが、結果的には本メンバー相応のスケジュール立てになった。

(5月26日)

新幹線・小田急と乗り継ぎ渋沢へ。さらにバスで大倉登山口に着いたのは 11:10 頃。登山口には、駐車場やビジターセンター、コンビニ、トイレが完備されている。日曜日とはいえ昼にも係らず、まだ駐車場に入ろうとする車が並んでいた。好天に恵まれ過ぎ真夏の猛暑そのものであった。そのあまりの暑さにしばらくたじろいでいたが覚悟をきめて 11:20 に出発。本日の目標地点までの標高差は約 1200m あり、それをコースタイム上は 3 時間 30 分で歩く事になるのでそれなりに急な尾根登り覚悟する。スタートしてしばらくはアスファルト道を歩くが、林道の様な道になり勾配もだんだんときつくなってくる。樹林帯が強い日射を防いでくれているので大助かりだ。またこのコースには、塔ノ岳までの間に見晴茶屋、駒止茶屋、堀山の家、花立山荘と休憩所となる茶屋や小屋が沢山あり、これら以上のピッチでベンチやテーブルも整備されている。

出発して 4 時間弱で花立山荘に着く。ここは開けた場所で、見晴らしもいいが黄砂のためか富士山は霞んでいる。この日は特に暑さを感じ、山荘の売店のメニューの氷に思わず「氷ください」というものの「売り切れです」との返答にガッカリ。ここからも同様に傾斜が続きだんだんと樹木が少なくなってくる。16 時頃塔ノ岳に到着するが、思っていた以上に時間が掛かってしまい体力の無さを嘆くしまつである。山頂は 360 度のパノラマが広がるが、先ほどと同様に好天に恵まれているのに富士山は霞んでいる。



塔ノ岳から見る富士山



塔ノ岳尊仏山荘

一通りの写真を撮り終え尊仏山荘に入る。客は少なかったので基本4人部屋を充がってくれた。丹沢の稜線にある小屋は水が乏しい。小屋から0.3kmの所に水場があるが枯れる事もあるという。手洗いの水にも、歯磨きの水にも不自由をするのでウェットティッシュは必需品だ。

(5月27日)

今日も天候は抜群。富士山も昨日よりは良く見える。昨日はほぼ登り一辺倒であったが、今日は稜線歩きとなる。小屋を出発して直ぐにコバイケソウの群生に出くわす。これ以降いたる所に群生が見られる。

1時間強で丹沢山に到着。展望は良くないが富士山の方向には開けている。

更に2時間程で蛭ヶ岳山荘に到着、「名物ひるカレー」ののぼりが目立つ。小屋の南側を進むと丹沢最高峰蛭ヶ岳山頂に出る。富士山の方向にゆるい斜面の観覧席になっている。霞んでいても富士山は近くなので絵になる。しかし、天城山以外はよく分からなかった。

丹沢は山の土の流出防止のためか、木道や木の階段がやたらと多い。逆にいうとよく整備されている。小屋・茶屋・ベンチも多い、これも人出が多いからだろう。本コース上で注意したいのは、蛭ヶ岳の西斜面の急下りである。岩稜の上にザレが乗っかり鞍部まで続く危険な箇所である。クサリも設置されているが、足の置き場と一致していない所も多い。また、青ヶ岳山荘の女主人からは、蛭ヶ岳～焼岳を経由するコースにはやたと蛭が多くやめといた方がいいとの忠告を受けた。いずれの小屋でも夕食はカレーだったが、青ヶ岳山荘のカレーは肉の旨みがたっぷりと染み出た絶品だった。

この時期丹沢を目指す人の目当ての一つはシロヤシオツツジの様である。特に、下山時にすれ違う西丹沢ビジターセンターからの登りの人からは「咲いていましたか？」と声をかけられることが多かった。

◆メンバー：K、Shiba、他1名

◆コース：大倉登山口～塔ノ岳（尊仏山荘泊）～丹沢山～蛭ヶ岳～檜洞丸（青ヶ岳山荘泊）～西丹沢ビジターセンター

◆所要時間／歩行時間：4時間35分／3時間50分（5月26日）、8時間10分／6時間30分（5月27日）、3時間10分／2時間45分（5月28日）



丹沢山から見る富士山



丹沢最高峰蛭ヶ岳から見る富士山